

「日本の展望 2020（仮称）」目次に対する第三部からのコメント

第三部

本コメントは、日本の展望 2020 の目次に対して総会中に開催された第 3 部会において得られたものである。目次のみについてのコメントであることを御承知いただいた上で、今後の各執筆において活かしていただきたい。

なお、第三部では、さらなる意見等がある場合は第三部役員へお知らせいただきたい旨お願いしているため、追加があれば、適宜、ご紹介する予定である。

- 「2. 持続発展的（な社会）」において、
  - ・ 国家等間の紛争などについては言及する必要はないか。
  - ・ SDGs に関連についての言及の必要があるのではないか。
  
- 「5. 知識社会と情報」において、
  - ・ 「5-2 大学の在り方と大学改革」において、目次の内容は狭義の意味での大学になってしまっており、もっと広く捉える必要があるのではないか。
  - ・ 「5-2 大学の在り方と大学改革」において、（3）リカレント教育と（4）ダイバーシティの推進 は、他の目次項目とかぶっているため、内容の整理が必要。
  
- 「7. エネルギー・環境問題」において、
  - ・ この分野においては時間スケールや空間スケールをとらえた問題設定が重要であるため、それらを考慮した目次の設定が必要ではないか。
  
- 「8. 日本学術会議の世界の学術界における役割」において、
  - ・ 日本学術会議と世界の学術界との関係をここでとりわけ取り上げることに違和感がある。もっと広く日本の学術と世界との関係性、役割を言及する必要があるのではないか。
  - ・ 目次の「日本学術会議の」は削除したほうがよい。
  - ・ この目次の内容からは、日本学術会議が取り組んだ国際関連事項の報告になってしまっている。
  
- 「9. 日本の学術界の展望」において、
  - ・ 9-4 「学術の社会的広がり」において、博士のみ特出ししているのは狭義すぎるのではないか。
  - ・ 「基礎科学の意義と社会とのつながり」については（この章ではないかもしれないが）きちんと言及されるべきである。

- その他および全体を通して、
    - ・ 目次の書きぶりにおいて、人が「素材」として扱われている印象がある。主体としての「人」が感じられる必要があるのではないか。
    - ・ 「学術情報と学協会のあり方(仮題)」を追加する提案があった。「5 知識社会と情報」または「9 日本の学術の展望」に追加することを検討頂きたい。
    - ・ 「地球温暖化と気象災害(仮題)」を追加する提案があった。「7 エネルギー・環境問題の最初」または「6 国土の保全と資源管理の最後」に追加することを検討頂きたい。
- (以上)

「日本の展望 2020（仮称） 目次」に対する地球惑星科学委員会からのコメント

地球惑星科学委員会

日本の展望 2020 の目次案について、地球惑星科学委員会としての意見と提案を以下にまとめます。

まず第一に、学術や基礎科学に関する記述が最終章に置かれている現在の構成案は、日本学術会議から発出される提言としてバランスを欠くことを懸念します。また、たとえば先日会長が緊急メッセージも出された気候変動分野についていえば、現在までの地球環境変動やメカニズムの理解、さらには気候の将来予測などの知見がほぼ完全に欠落しているようにみえます。そうした基礎的な学術的知見に基づかない緩和策・適応策の議論には説得力がありません。そもそも日本学術会議は、そうした学術的知見に基づいて今後の展望を語るのが本来の姿ではないでしょうか。現在の目次案は、全体的にそのような構成になっていないように見受けられますので、構成を変えるべきように考えます。ただし、いまから抜本的な改訂は容易ではないでしょうから、以下のような提案をいたします。

1. 基礎科学の全般的記述を冒頭（第 1 章）に移すことを提案します。
2. 「文化（仮）」では、自然科学の基礎的研究の文化的価値に言及があつて良いと思います。なぜなら、宇宙の起源、地球の起源、生命の起源、日本列島の起源、人類の起源などの研究、自然諸現象の原因解明は、迷信からの解放という大きな文化的役割と価値があります。
3. 第 6 章の「6-7 防災減災」には地震・火山・津波を明記し、また豪雨・台風・水害・土砂災害もここに含めるか第 7 章に含めるかすることを提案します。
4. 「6-7 防災減災」、「7-3 エネルギー・環境分野の科学・技術」「8-3 地球規模課題」「8-4 環境・防災」においては、環境変動の素過程と複合過程の理解という基礎科学的な学術研究の重要性を強調すべきです。現在の原稿は、災害発生、環境変動はありとしてその対策について多くが述べられていますが、そもそも、現象そのものの理解がなくては環境の保全や防災が成り立たないという前提的基礎的研究が明示的に示されなくてはなりません。
5. エネルギー問題は環境問題とのコンテキストにおいて重要であるという意味において、第 7 章は「環境・エネルギー問題」と名称変更し、7-1 節に「気候変動と地球温暖化」を追加することを提案します。

6. 第8章の8-3節で議論されるIPCCに関する原稿執筆者としては専門家である連携会員の江守正多先生（国立環境研究所）が適任と考えますので推薦いたします。また、同じく8-3節で議論されるFuture Earth（FE）は専門家であるFE分科会委員長で連携会員の安成哲三先生（総合地球環境学研究所所長）が適任と考えますので推薦いたします。

7. 序章（未提示）、9-1もしくは9-2において、自然科学における基礎研究の重要性を明示する必要があります。目次においてはこの部分の重要性が浮かび上がっていません。従来分野（物理、化学、生命科学、地球惑星科学）において蓄積されてきた素過程研究の維持強化と分野を超えての素過程研究の深化の両者をバランスよく発展させるという戦略が見えるようにすべきです。応用科学の発展、社会的「出口」としての研究成就の前提に上記のバランスが不可欠であることを強調すべきです。

（以上）